

めだかの学校だより

平成30年3月2日
第99号
学舎：周智郡森町一宮
「一宮総合センター」
事務局：静岡県磐田市
家田529-20
TEL:0539-62-6691

校長訓話

第九十九回 校長 早川幸恵

めだかの学校に入校させて頂いたのが29年の3月3日、第95回メダカの学校でした。入校1年で校長の「指名をいただけるとは、さすが『めだかの学校』。まずは自己紹介、5年前から森町で夏はトウモロコシ、冬は白ネギや中身が真っ赤な紅心大根などを作って販売することを生業としています。

1年の実務研修を経て独り立ちしたのが26年の春。一人でやるからいつも失敗だらけ。1年目は蒔いた種の半分も収穫できない有様。畑の真ん中で途方にくれる毎日です。

でも、「アーして、コーして、こうしたら次は出来るじゃないか」。夕日を眺める頃には考えがまとまって不安が無くなり、ワクワクしているから不思議で

す。さらに、進む方向が決まると、早くやりたいともうズウズ。

森町に来たのもワクワクする古民家に出会ったから、農業の世界に飛び込んだのも一生ワクワク出来そうな仕事だから、めだかの学校もワクワクする人達が集まっていると聞いて。そして今年、森町がワクワクする町になる活動を始めます。

アクティ森から500mほど南、吉川のほとり。今は基礎だけが残された温室の跡ですが、残骸を取り除き、平坦に整備しています。通常は育苗や干し場などに使うけれど、こんな広いスペースそれだけではもったいない。隣は四季折々の野菜がとれる畑、たまには採れたての野菜を直売したり、その場で調理したり、いろいろなが食べ物や自然を通して交流できる場にしてもいいじゃありませんか。

夏は子供たちが川遊びに歓声を上げながら、トウモロコシを頬張る。秋は彩

る山を背に収穫祭。冬は澄み渡る星空の下で焚き火を囲み、春は土香る山野菜に舌鼓を打つ。人が集まってわくわく、わいわい。そんな場所をワクワクしながら作る。考えるとワクワクしませんか。

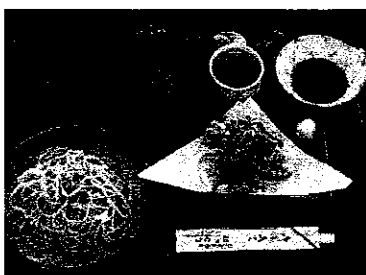
あとは収支が合うように、継続可能な生業にできるか、パソコンの数字とにらめっこ。「アーでもない、コーでもない」

今年の夏には、このワクワクを皆さんにお披露目できるよう、奮闘中です。



①推定、築120年の自宅で自家焙煎珈琲屋を営業中

②農家のお母さんたちが立ち上げた『あじさいグループ』で地元の農産物を使った惣菜作り



めだかの学校伝言板

——第99回めだかの学校を開校するので出席しなさい。

校長／早川幸恵

教頭／古橋利雄

用務員／小栗華

給食係／大久保陽・村木謙之・石野省三・古橋利雄

牧野久子・大谷香代子・今村純子・山中幸子

尾上美智子・小山展弘・中村やす代

渡辺三ツ子(チーフ)

※お手伝いできる人はぜひ早めにお出かけを！

<学舎>静岡県周智郡森町一宮「一宮総合センター」

TEL:0538-89-7730(開校日のみ)

開校日／平成30年3月2日(金)6:20PMより

受付／大場敬子・大橋町代・斉藤昭(後見人)

25期通年テーマ：『めだかの学校、四半世紀 次世代に何を為し、何を語る』

今回のテーマ：《開校100回に向けて》

<時間割>

●1時間目 総合学習 榊原幸雄 先生(磐田市)

「人の出会いは面白い…それがめだかの学校へとつながっていく」

●2時間目 学級活動 石野省三 先生(浜松市)

「開校100回の進め方について」

●給食の時間～3月3日はひな祭りご膳?～

9:30 閉校

めだかたち

■NPO法人が浜松の中山間地の茶畑の上で太陽発電!

平成29年12月25日発行の「かがり火」NO178号に「茶畑ソーラーシェアリング事業」茶畑の上で太陽光発電事業!そんな取り組みを浜松の中山間地でNPO法人がはじめました。の大きな見出し。そう言えば最近はお茶の需要が低迷して茶畑をやめて太陽発電に切り替えているところを良く見るようになった。読み進めば「畑でも日陰のほうがいい作物などを選べば、耕作地の上にパネルを付け、上で発電、下で農業生産するという一挙両得の方法だ。あるのだから」とそんな発想で経済産業省の「再生可能エネルギーを使った事業構想「まちエネ大学」に応募、採択される。提案したのが「茶畑ソーラーシェアリング事業」。一年間、東京の「まちエネ大学」に通って、知識を得つつ、浜松の北部の中山間地で、農業者などの協力も得て、NPO法人を立ち上げて実践している。茶の木が太陽光パネルと相性が良く、半日陰の環境が育成に適していることもあって、パネル下の茶葉の育成は何もしない場所の茶葉よりも三割以上伸びも良く、色艶も抜群で、柔らかく理想的な茶葉が育ったとのこと。

記事は大幅に割愛してしまっただが、いやー大したもんです。執筆者は磐田市の大島たまよメダカ。興味のある方は、地域づくりは面白い。地域を学び、地域で遊ぶためのヒューマンネットワークマガジン「かがり火」、NO178号を読んだあと、本人に話を聞くといいですよ。(バラメダカ)

「かがり火」の年間予約購読料は、年6回配本、支局長名鑑付で9000円(送料・消費税込み)です。発行人は首原敦一メダカ。購読したいと思う方は、合同会社かがり火の電話03・5276・1051まで。多くのメダカ生が読者で支局長になっっています。

■人との交流の大切さ、使用済み切手のご協力に感謝

早いもので私も今年で72歳になります。第1期生から人との交流を大切な物として、第一に考えて生きてきました。たまたまバラさんの使用済み切手のタイの象を救う記事を読み大変感動をした事を機会に、今までつちかかって来た人との絆に頼って協力を依頼した所、何とアクティ森、袋井国際交流協会、掛川国際交流会、掛川・大東・大須賀図書館、掛川市シティプロモーション課、観光振興課、文化振興課、大須賀支所、観光協会大須賀支部、夢咲農協大須賀支所、サンサンファームの協力を得ることが出来、とても驚いています。人生において人の気持ちを大切にすることが重要だとつくづく感じている今日この頃です。(第一期生・鳥山剛メダカ)

■遠州に春の訪れを告げる「三熊野神社大祭」

今年も遠州横須賀に祭りの季節がやってきます。4月6日(金)・8日(日)「遠州横須賀 三熊野神社大祭」、城下町遠州横須賀は祭り一色に染まります。満開の桜の下、13台の柵里(ねりり山車)が繰り出し、三社祭礼囃子(SS)指定、静岡県無形文化財(第1号)の名調子に乗って右へ左へと大きく枠を振りながら、練り歩きます。柵里の上ではひよっとこやおかめが面白おかしく舞い踊り、「したした」の掛け声

に合わせて曳き廻します。6日(金)「揃い」は、午後から町内廻り、7日(土)「宵宮」AM10:00過ぎに13台の柵里が三熊野神社大祭境内へ集まって行う「奉納祭」、8日(日)「本祭」はお神輿様の渡御行列に供奉、13台の柵里が横須賀の町を一日かけて一周し、PM9:00頃には再び13台の柵里が三熊野神社境内へ勢揃いし、「千秋楽」を行い祭りはフィナーレを迎えます。また、祭り期間中の4月7日(土)、8日(日)AM11:00頃からPM3:00頃まで、廻船問屋「清水邸」本宅において、松本芳廣メダカによる「手打ち蕎麦立ち寄り処」を開設しますので、めだか生の皆さん、ぜひお祭り見物の際にはお気軽にお立ち寄りください。(鈴木武史メダカ)

■第26回森の町並みと蔵展

30年4月7日(土)、8日(日)に森町の中心街で「町並みと蔵展」が開催される。7日(土)には、講演会も予定されている。問合せは榊原淑友メダカ090・1472・6189へ。

■獅子ヶ鼻公園桜まつり

磐田市北部、大平の獅子ヶ鼻公園野外ステージで、4月1日(日)に「桜まつり」が行われる。ステージや露店が出て盛り上げます。「しっぺい」や磐田市観光大使のお披露目もあるかも。問合せは、0539・62・6669豊岡東交流センターへ。

■鈴木正士邸「お茶摘みコンサート」

磐田市大平の鈴木正士メダカ邸で、4月28日(土)「お茶摘みと交流コンサート」の会があります。会費は3000円(食事付)問合せは、鈴木正士メダカ。090・8964・9101へ。

「人・ひと・ヒト……だより」

今年もたくさんの方の年賀状と寒中お見舞いありがとう!その中からほんの一部ですが、掲載させて頂くことにしました。

●磐田市の伊藤英雄メダカ。年賀新聞発行。嬉しかった出来事。訪問先が見つからずパニックっている所に、目的地まで捜し出して誘導してくれた若い女性。体調不良で強制休暇中、農作業を手伝ってくれた友人のこと。不戦の誓いー日本国憲法第九条:云々。82歳目前、お医者様は「治療」するとは言わなくなった。

●磐田市の小林佳弘メダカ。情報誌「NEOばんぐきん」も創刊四十年。新しい年を迎え、一つ年を加え「後期(光輝?・好奇)高齢者」。意欲だけは激しく八冊目の冊子準備中。今や、すっかり郷土史家ぶって、郷土の史話を次世代に伝える事が私に与えられた天命だと意気がり、毎月第二土曜日「ふるさとの昔ばなしを楽しむ会」張り切って開催している。

●森町の村松達雄メダカ。昨年11月、鎌倉市鶴岡八幡宮で、天宮神社十二段舞楽及び乙女舞を奉納。8月には江東区の富ヶ谷八幡宮の祭典で御神輿を担ぎ、真夏の報徳二宮神社大鳥居のお木曳き祭に参列など、小田原との縁が深まった、と。いろいろな面で後継者の育成の大切さを実感、だつて。

●浜松市の大谷洋介メダカ。寿山堂という骨董屋を営むだけあって古書にも造詣が深く、流麗な文字で書かれた掛軸の写真。「古道につもる木の葉を騒ぎ分けて天照らす神の足跡を見ん」奇峰女書(尊徳の息女)。二宮尊徳と言えば、わらび座がミュージカル「KINJIRO」を、2月11日磐田市文化会館で、小中学生の親子を無料招待。磐田市教育委員会と文化振興会が主

催。めだか生もスタッフとしてお手伝い。
●浜松市の池田誠二郎メダカ。これまた綺麗な筆文字で、『意乃心之足』。最初の一步を踏み出す勇氣さえあれば二歩目からは日々是好日、と

●磐田市の原邦司メダカ。人生の集大成をすべく、磐田市から故郷水窪へ転居いたしました、と。ふるさとへの強い思いあればこそ。

●浜松市佐久間町の山田修平・ひろ子メダカ。昨年はいろいろありましたが、皆それぞれががんばっているのでもううれしませんで、だつて。

●磐田市の富田久美子メダカ。磐田市北部岩室の10年ほど前から住んでいない築百年以上の古民家を購入。「ご縁」を大事に。これほど思ったことはありません。まわって、つながって。今は幼稚園の先生なので、土、日曜日はご主人と通って、建物や庭の手入れなどに奮闘中。セカンドハウスのつなごりを楽しみながら遊びます、と。若いお母さんたちの交流の場になるといいね。

●浜松市引佐町の石野省三メダカ。昨年はいたずらな西どもがご都合主義にはしつたようだ。SNSもいいが、楽しい暮らしや新しい発見にはフェイスブックの繋がりが不可欠の基本では！アッププでお皮様の知恵をお借りしたい。今年も遊び心で、だつて。

●三重県津市の杉谷知也メダカ。昨年2月に第三子が生まれました。5歳、3歳、0歳の男の子。みなお父さん似!!。それにしても賑やかさが目に見えるよう。

●こちらは昨年12月に第二子が誕生の、磐田市の草地博昭メダカ。市会議員として率先して人口増に貢献！嬉しいね、楽しいね、頑張つてね、パパ。

●浜松市の鈴木真弓メダカ。今年はこのか

らはじめます、と1月9日～1月14日まで、名古屋市のギャラリー彩で『鈴木真弓作品展』。マクラメ(結び紐)をアートの世界にまで広げている。掛川市横須賀のちつちやな文化展では常連の作家さん。

●浜松市の加茂光廣元メダカ。浜松中日文化センターで「四季の花めぐり」野外講座を担当して20年。センターが3月末で閉鎖することになり、残念、と。一回生で長年得意の草笛で校歌「めだかの学校」の伴奏をしてくれた。開校100回記念の校歌斉唱にはぜひ草笛の伴奏を!

●浜松市天竜二俣の本島慎一郎・真弓メダカ。「マルカワの蔵・又水」の運営も5年目。今年は「遊鶴の会」の皆さんが折った連鶴が中東オーマン国のカープス国王に贈られる、と。

●豊田市足助町の佐久間章郎さん。2月10日～3月11日まで開催される「中馬のおひなさん」が今年も20回目だつて。同じ足助の住人の青木信行さん。昨年4月1日に民間有志で立ち上げた築120年の伝統を持つ楽屋併設の舞台「寶楽座」を核とした「芸術文化村」創造に取り組んでいる、と。足助は熱い。

●新城市の清水良文元メダカ。こちらも熱い。市役所定年後、自然エネルギーから奥三河ビジョンフォーラム、和太鼓集団「志多良」、愛大の非常勤講師。リコーダー合奏38年、合唱劇「カネト」と。東栄町の伊藤静男・公子メダカともつながって、100回記念で「志多良」のデモ演奏も、と。

●飯田市の玉置洋一メダカ。今年も出席します、だつて。まっせまっせ。

●浜松市引佐町の鈴木一記メダカ。いつも行きたいと思つていますが、なかなか行けずツライです。頑張つて行きます、と。

●千葉県松戸市の滝川徹元メダカ。25年

前は毎日新聞浜松支社長。1回生。「メダカ元気に泳いでますね。6月2・3日留意します、と。必出席ですぞ!とバラメダカ。●埼玉県草加市の藤田久枝メダカ。もつとずーと長生きしてお世話をお願いします。潤吉さんと知り合えたのも「めだか」があつたおかげです。私にとって大切な学校、感謝!と。

●磐田市の高田正人メダカ。めだかの学校の良さは、「多様性」だと思ひます、と。まさに。

●浜松市の城内美メダカ。日本、スペイン両国の友好関係強化に尽力したと、昨年12月スペイン文民功労勲章「エンコミエンダ・デ・ヌツメロ賞」を授与される。嬉しいね。

最後に「言葉」1つとトラスワン。
●藤枝市の小嶋良之メダカ。「最後の1日は人生に納得するためにある。それがたとえそれまで、後悔の多い日々を、過ごしてきたとしても、最後、自分の人生は幸せだった」と思うことが出来れば人は穏やかな気持ちで、この世を去ることが出来ます。最後の日を正しく迎えるために、1日1日をきちんと終えていくことが大切です。「ホスピス医 小澤竹俊」。

●名前も住所もなく、真っ赤な地に黒の犬の絵と謹賀新年の文字。今年も「めだか」楽しくやってみます、とポールベンの書き文字。どなたか分かりますか?(笑)。

●昨年杉浦清司さんでした。このような方もいて、今年も「めだか」は賑やかです。ハイ。バラメダカ。

××××××××××
●お詫びとお知らせ
「めだか春秋」は紙面の都合で、100回号に延期します。執筆くださいました早川裕康メダカへ心よりお詫び申し上げます。

■25周年・開校100回記念のお知らせ
タイトルは「めだかの学校開校100回記念大同窓会」。趣旨は、生徒と生徒との交流を広め、深めるとともに、元在校生やめだかの学校と関わりのある人らとの親交も図る。
【日程】
平成30年6月2日(土) 13時～3日(日) 11時30分までの予定。
【会場】
古代の森 遠州一宮「小國神社」大宝殿 静岡県周智郡森町一宮
【プログラム(予定)】
2日(土) 13時～小國神社本殿正式参拝。13時30分受付開始(大宝殿) 14時～記念授業開始(百人の先生による講義) 1人3分以内) 17時記念授業終了。18時～大交流会(大宝殿前庭及び大宝殿) 20時30分交流会中締め。21時～夜なべ談義。II宿泊
3日(日) 7時起床。片付け掃除。8時朝食(大宝殿)、片付け。9時～森町とおき名所めぐり出発。11時記念学校終了(解散式) 11時30分解散。
【会費】
一日帰りコース5000円(授業料・交流会費含む) 二日宿泊コース 9000円(授業料・交流会費・宿泊費・朝食など全て含む。お土産も?)。
以上は概略です。参加申し込みや詳細は4月上旬ころ発送します。
なお、楽しい大同窓会にしたいと思ひますので、参加者ひとりひとりが実行委員のつもりで協力下さい。「傍観はダメですよ」とは石野省三実行委員長。

トピックス

■ダメ犬サブレ

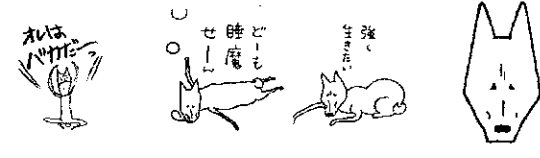
ひとコマツリート漫画「犬サブレ・赤」を出版して、もうじき6年になります。東日本大震災の直後に、この犬のサブレは生まれました。

サブレの歌も作りました。サブレのつぶやきをそのまま再構成して歌にしています。「赤」「黄色」「みどり」と三曲ありますが、現在「水色」を鋭意制作中です。

通称「黄色」の「哀愁の犬サブレ・黄色」は、新宿のゴールデン街では、今でもリクエストがあります。♪がまん弱い僕 苦しい時の亀頼み♪で始まるムード歌謡調のこの歌は中高年の男の方にはグッとくるものがあるようです。けっこう歌い込んでますので自信がついてきました(笑)。YouTubeで聴いてみてください。けっこう下手でした(笑)。

■事務局だより

日の経つのは早いもので、「鬼は外」「福



は内」の声か聞こえてきます。庭の梅も一輪二輪と咲き始めています。初め第98回めだかの学校は、29年12月1日に開かれまして。校長

日比野雅彦、教頭大庭敬子、用務員秋山勝則。テーマは「めだかの学校環境楽団」3つの楽章 うみ・やま・まち」から。授業も1時間目、体育「サーフアー」から渚の守りびとへ、そして「声川和美先生。独身時代遠州浜でサーフィンを楽しんでいたが、結婚して子どもが生まれた時、海や海岸の汚れが気になってゴミ拾いを始めた。今では全日本選手権が開催されるほどの綺麗な海岸になった。新たな行動もどんどん広がっていった」と。二時間目、道徳の内田貴久先生、時間的に出席するのは無理と、ピンチヒッターで伊藤静男(東栄町)にお願した。「和太鼓集団志多らのフアンクラブを中心に地元住民と共に、2010年統合により廃校となった小学校を拠点に、「NPOでほへ」を設立。その理事長として「カフェ」の運営、公営図書貸出し、学校施設の管理運営、三遠南信など幅広い活動を語る。三時間目、社会「キッズ環境劇団からまちのにぎわいに、そして：「内山ゆき多先生」浜松を元気にしよう」と、子ども劇団の活動から「浜松がんこ祭」の実行委員会を結成しその浜松がんこ祭は、30年3月10日、11日で18回になる。浜松南星座館すまいる村では健康食の軽食カフェもやっている、と。

日比野雅彦校長訓話。まさにブン屋さんらしく活字文化のアナログの良さを、記者時代からの体験を通して語る。新聞はいい!!。事務局からは、開校100回について、石野省三実行委員長が概略を説明。私語飲食全て禁止の次回三役は、校長早川幸恵、教頭古橋利雄、用務員小栗華。若い校長、用務員を支えるのはベテラン教頭。楽しみます。



第99回めだかの学校の職員会議及び開校100回記念の実行委員会を、30年1月13日(土)16時から学舎で開く。16時から18時まで100回記念の話。日程は6月2日(土)・3日(日)、会場は小國神社と決まっているので、内容について検討、参拝は2日13時に本殿前鳥居休息所に集合して本殿にて合同参拝する。受付は13時半から大宝殿で。百人の講師による授業は14時から17時まで。18時から20時30分まで大宝殿前庭バーベキュー及び大宝殿で大交流会。30分片付けして21時で終了。以後は夜ナベ談義。3日は朝食は8時から、内容は次回で検討とすることに。第99回のテーマ及び授業については、豪華な釜飯を食べたあと、18時半から話し合う。早川校長は体調を崩して欠席。古橋教頭、小栗用務員出席。3月2日の第99回は、6月の100回記念の前であるので「絡めてやった方がいい」と。テーマは「開校100回に向けて：言い出しつべ語る」だったが、伝言板では言い出しつべ語る、をはずしました。授業については、一時間目総合学習「人の出会いは面白い：それがめだかの学校へとながって行く」言い出しつべ 榊原幸雄先生。二時間目学級活動「開校100年記念の進め方について」実行委員長石野省三先生に。なお開校100回記念については、第2回1月23日、第3回は2月10日に話し合いますが、概略

は3面の「開校100回記念」のお知らせを参照して下さい。

■第25期の受付をしています

第25期は平成29年9月1日から30年8月31日までです。25期の実質授業は、6月2・3日の開校100回で終わりになります。26期は30年9月7日の第101回からとなります。26期の申込書は改めてお送りすることにしました。

■今回も「めだかの学校だより」遅れてごめんなさい。

いつもお手伝いいたいています鈴木武史メダカ、石野省三メダカ、伊藤英雄メダカ、田村進治メダカ、まとめてくださる間瀬亮太メダカ、発送などのお手伝い榊原明美さんありがとうございます。

■めだかの学校だよりの原稿を!

次回の発行は、30年5月1日予定。締切りは、4月20日。みなさんの日頃の活動、イベントの開催など、情報を手紙かFAXで待っています。メールの方は、mabuchi-trd@yr.tnc.ne.jp 間瀬亮太090・5009・0986です。(メールの方は割付の関係もあるので「一報を」)

■めだかの学校の事務局

〒438・0105 静岡県磐田市家田529番地20 榊原幸雄方 TEL 0539・622・6691 (FAX同じ)
 ※学舎「一宮総合センター」周智郡森町一宮3150。電話0538・89・7730 開校日の午後4時以降のみ使用可。携帯080・1612・9130

